

ACANTHUS NEWS



平成16年 2004.2
月刊アカンサスニュース
金沢大学広報紙 第87号

TOP NEWS

大学の地域貢献をテーマに 大学・自治体関係者, 市民らが意見交換 —東海・北陸 地域貢献シンポジウム—



各自の課題について活発に意見交換したグループ別討議＝金沢市内のホテル

「大学の地域貢献が直面する課題」をテーマに、1月30日東海・北陸地域貢献シンポジウムが開催され、東海・北陸地区をはじめ全国の国公立大学、自治体関係者、市民ら220名が参加した。

このシンポは、文部科学省地域貢献特別支援事業の一環として、文部科学省と金沢大学が主催し、共催した名古屋、名古屋工業、三重の各大学及び本学から地域貢献事業の成果が発表された。

また、消費生活アドバイザーの碧海西葵氏の特別講演を始め、全国市長会会長の山出保金沢市長及び桜美林大学大学教育研究所所長高橋真義氏から、大学の地域貢献に対して提言があった。全員参加型のグループ別討議の時間では、各事業



特別講演する碧海氏



大学の地域貢献について提言する
山出市長

を実施する上での課題や問題点について活発に意見交換され、会場内はたいへん和やかな雰囲気となった。



各大学の取組みが紹介されたパネル展示コーナー

巻頭言

薬学部6年制に向けて



薬学部長
石橋 弘行

ヒトには「恒常性を維持」するホメオスタシスというのが備わっております。そのホメオスタシスが崩れた状態を「病気」と言います。「病気」を治すものが「お薬」です。先人は数々の有用な「お薬」をこの世に送り出してきました。そして、その「お薬」によって「病気」に苦しむ多くの人々が救われました。このような有用な「お薬」を創製するための基礎研究を行い、「お薬」を適正に取り扱うことのできる薬剤師を育てることが薬学部の大切な責務です。

しかし、今、日本の薬学部は重大な曲り角に立っています。薬学部は、現在の学部4年制ではなく、学部6年制を基本とし（4年制学科の併設も可）、その上に4年制の博士課程をつくるということになりそうです。現在の医学部と同じようなシステムになると考えたら良いでしょう。

薬剤師免許の受験資格に関しては、6年制学部を卒業し

た者にのみ薬剤師免許の受験資格を与えるというものです。ただし、薬学部で4年制学科を残した場合、その卒業生が修士課程に進み、実務実習を含む医療薬学に関する履修をすれば、その修了生に例外的に受験資格を付与しても良いのではないかと議論もなされております。

薬学部がすべて6年制になりますと研究環境は一変します。現在の博士後期課程（博士課程）に進学する予備軍であった修士課程の学生が薬学部からいなくなるからです。薬学部を卒業したものは、卒業生のほとんどが医者となるであろう医学部のように、すべて薬剤師としての道に進み、創薬研究はその上の博士課程で行うということになるかもしれません。そのような状態ではたして博士課程がうまく機能するのか大変心配になります。また、日本の科学技術水準が長期にわたって低迷するのではないかととも危惧致します。

日本の薬学部は世界の COE です。日本の薬学部では薬剤師を養成することのみならず、優れた環境の下で世界一流の研究を行ってきました。世界の科学技術の発展のため、日本の薬学部は大きな役割を果たしてきました。

金沢大学薬学部の学術的水準を保つためにはどのような方策を講じたら良いのか、これが薬学部としての今後の大きな課題です。

目次

大学の地域貢献をテーマに大学・自治体関係者、市民らが意見交換		先端研究フォーラム	5
ー東海・北陸 地域貢献シンポジウムー	1	林学長 いしかわシテカレッジで講義	6
巻頭言 薬学部6年制に向けて	2	成人祝賀式	6
法科大学院入試に397人が挑む	3	弁護士過疎地域で活動する学生に奨学金を「NPO法人ロースクール奨学金ちゅうぶ」が	6
大学入試センター試験	3	奨学金説明会	6
『薬学部卒業研究発表会』開催	3	金沢学体験学習で留学生が和太鼓に挑戦	6
学内の教育・学術情報のデータベースを構築		ミニ講演 同位体の化学と生態学	7
総合メディア基盤センターが研究会立上げ	4	社会教育主事フォローアップ研修	7
リーディングスキルを高めるには		外国人留学生在留資格に関する講習会	7
ー外国語教育研究センター第2回研究会ー	4	大学院特別コース及び留学生施策等の説明会	7
通信・放送機構からアプリケーション（医療）賞	4	ちよっと昔の雪遊び 竹スキー	8
大学での知的戦略に指針		ー角間の里山自然学校ー	8
ー知的成果の技術移転に関する講演会ー	5	事務職員の海外研修	8
環境分野研究成果報告会	5	大島事務局長が退任	8
起業家育成セミナー	5	編集後記	8

トピックス

法科大学院入試に
397人が挑む

4月開校の法科大学院（法務研究科）の入学試験が1月31日、角間キャンパスで行われ、大学4年生や社会人397人が小論文試験に挑んだ。この日の試験は、標準コース（3年）と法学既習者を対象とする短縮コース（2年）のすべての志願者が対象で、翌2月1日には、短縮コース志願者139人が法律科目の筆記試験を受験した。

また、2月12日には同大学院の合格発表があり、標準コースに61人が合格した。複数の大学を掛け持ち受験する学生が多いことから、定員40人より多い合格者の発表となった。このうち、短縮コース志願者で筆記試験合格者には2月29日、さらに口述試験が課せられる。



小論文試験の開始を待つ受験生
=1月31日、文・法・経済学部A101講義室

大学入試センター試験



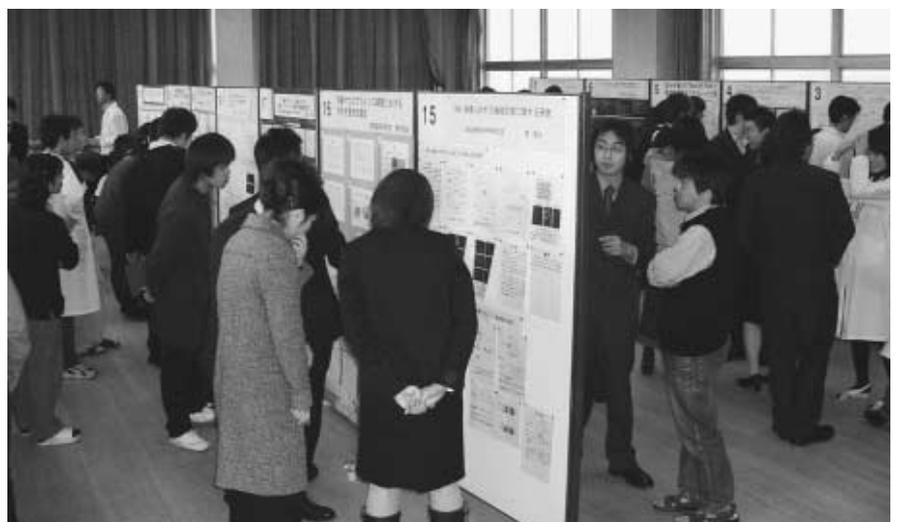
1月17、18日、石川県地区では本学を含めて6大学11会場で平成16年度大学入学者選抜大学入試センター試験が実施され、初日の第1次限の外国語には、角間、鶴間、小立野の各キャンパスで計3,651人が受験した。

心を落ち着かせて試験開始を待つ受験生
=1月17日、文・法・経済学部A101講義室

『薬学部卒業研究
発表会』開催

1月23日、薬学部卒業研究発表会が開催され、教職員や学生延べ約200名が参加し、ポスター形式での活発な質疑応答が行われた。今年3月に角間キャンパスへ移転するため、宝町の現校舎では最後の発表会となった。

ポスター発表に見入る学生ら
=薬学講堂



1月のニュース

学内の教育・学術情報のデータベースを構築 総合メディア基盤センターが研究会立上げ



村田助教授の講演に聴き入る参加者
＝総合メディア基盤センタープレゼンテーション室

総合メディア基盤センターは、大学内の研究・教育資料など各種情報の電子化・データベース化の推進と、その利活用法を議論する「データベース研究会」を立上げ、1月6日、第1回「金沢大学データベースフォーラム」を開催した。

フォーラムには学内外から約50名が参加し、愛媛大学総合情報メディアセンター・村田健史助教授による自然科学観測データベースの現状と将来を紹介する招待講演をはじめ、学内教職員による知財管理や研究・実験データベースの紹介、「金沢大学総合データベース」計画など、本学のデータベース推進事業に関わる講演・討論が行われた。

リーディングスキルを高めるには －外国語教育研究センター第2回研究会－

外国語教育研究センターは1月27日、本年度第2回研究会を開き、同センターの結城正美助教授が「速読を中心としたリーディング授業」と題して発表した。

結城助教授は、立教大学が英語統一教材として作成した *Information, Please! : Speed Reading and Authentic Listening* (松柏社, 2000) を紹介し、この教材を使った授業での速読練習、大意把握練習など豊富な実践報告を行った。

情報化が進み、リーディングの必要性が高まる中で、逐語訳を読解と信じている学生たちに、どのように「読むスキル」を習得させるかについて、会場では活発な意見交換が行われた。



発表する結城助教授＝総合教育棟小会議室



通信・放送機構主催、ギガビットネットワーク・シンポジウム2004で表彰を受ける研究グループの医学部保健学科小島一彦教授＝1月26日、東京TFTホール

通信・放送機構から アプリケーション (医療)賞

工学部岩原正吉教授を代表者とする本学研究グループは1月26日、総務省認可法人 通信・放送機構からアプリケーション(医療)賞を受賞した。同グループが実施している、「ブロードバンドネットワーク上の遠隔医療システム」の研究開発が評価されたもの。

大学での知的戦略に指針 — 知的成果の技術移転に関する講演会 —

1月21日、知的成果の技術移転に関する講演会が開かれ、講師のシステム・インテグレーション株式会社 代表取締役社長 多喜義彦氏は「現在、産業界は従来のパラダイムからの脱却を求めており、目先の利益に左右されることのない大学こそが、新しいパラダイムへの転換を促すことができる」と、大学での知財戦略について指針を示した。講演後には、多喜氏と知的財産本部、共同研究センター及びKUTLO関係者らが、大学の技術移転の促進について勉強会を開いた。



技術移転促進について意見を交す多喜氏と本学関係者一同 会議室

講演する多喜氏
= インキュベーション施設セミナー室



報告する山口センター長
= インキュベーション施設セミナー室

環境分野研究成果報告会

1月14日、学際科学実験センター、共同研究センター、石川県環境ビジネス研究会の共催により、本学の環境分野における研究成果の報告会が開催され、学内外から研究者、企業関係者ら約50名が参加した。

この報告会は環境分野における研究成果を広く活用してもらおうと、13年度から開いているもので、今回は山口和男学際科学実験センター長のセンター紹介に続き、同センター各分野の4名の教員から研究成果が報告された。

起業家育成セミナー

1月19日、共同研究センターは金沢市との共催により(株)パソナグループ代表南部靖之氏を講師に迎え「アントレプレナーの条件～起業家精神入門～」と題する起業家育成セミナーを開催した。

セミナーには起業の意欲を有する学生・大学院生や社会人など約120名が参加し、創業へ向けた心構えを学んだ。



講演する南部氏 = 工学部秀峯会館大会議室



先端研究フォーラム

研究者間の情報交換と研究の活性化を目的とする第5回の先端研究フォーラムが1月23日開催され、各部局の研究者4名が先端研究を発表した。

質問に答える研究者
= 総合メディア基盤センタープレゼンテーション室

学長室から



1月20日、技術移転についてのコンサルティングのため本学を訪問した、米国元スタンフォード大学TLOのニルス・ライマース氏（左から3人目）

林学長 いしかわシティカレッジで講義

林学長は1月8日、いしかわシティカレッジで開かれている「21世紀を生きるためのキャリアプラン」の講義を行い、社



人生計画の確立の必要性を説く林学長

会構造が変化する中で、人生の行動計画を確立する意義を学生に説いた。この科目は、県内17機関の学生らを対象に単位互換科目として開講されているもの。

成人祝賀式

今年度にな成人となった職員の成人祝賀式が、1月9日事務局特別会議室で挙行され、医学部附属病院医事課の上山聡子さんと同蔵上由季さんに、林学長から記念品が授与された。

林学長らと記念撮影する上山さん（前列左端）と蔵上さん（前列右端）



奨学金の説明を行うNPO法人担当者
＝金沢大学サテライト・プラザ講義室

弁護士過疎地域で活動する学生に奨学金を 「NPO法人ロースクール奨学金ちゅうぶ」が奨学金説明会

弁護士過疎地域で弁護士として活動する志を持つ学生に、奨学金の支給を行おうと、「NPO法人ロースクール奨学金ちゅうぶ」が1月22日、本法科大学院の受験希望者を対象に奨学金説明会を行った。同NPO法人は、名古屋、愛知、中京、南山、名城及び金沢の6法科大学院の入学者で、主として中部地方や全国各地での過疎地赴任の志のある学生2名に奨学金を支給する予定で、1月14日の名古屋に続いて金沢で説明会を開催したもの。

金沢学体験学習で留学生が和太鼓に挑戦

地域貢献推進事業の一環でいしかわシティカレッジと連携して実施している「金沢学」では、外国人留学生向けに、茶道、加賀料理など伝統文化の体験学習を実施してきた。その最終回として1月10日、金沢市大場コミュニケーションセンターで留学生が和太鼓を体験した。木越 治文学部教授と「大場瀧太鼓」のメンバーに指導を受け、「腰を低く、跳ね上げるように」など教わり、2時間ほどで基本を学んだ。雪の日であったが、会場は太鼓の音と参加者の歓声で熱気に包まれていた。



和太鼓に向う姿勢を学ぶ留学生

ミニ講演 同位体の化学と生態学

- 月 日：1月10日
- 講 師：中垣 良一 大学院自然科学研究科教授
- 場 所：金沢大学サテライト・プラザ
- 来場者：29名



生涯学習の新しい動向について理解を深める出席者
=1月24日、国立能登青年の家

社会教育主事フォローアップ研修

1月24日～25日、大学教育開放センターは、国立能登青年の家との共催で「社会教育主事フォローアップ研修」を実施した。この研修は、社会教育や生涯学習に関する最新の情報を提供するために行われており、今年度が2回目。

市町村教委の社会教育主事、学校と地域社会との連携や融合に関心を持つ教職員等22名が出席し、講演やワークショップなどを通して、生涯学習の新しい動向、学社融合、市町村合併、男女共同参画社会づくりなどに関する「学び」を深め、相互の啓発の機会とした。

外国人留学生在留資格に関する講習会

1月21日、石川地域留学生交流推進会議主催による「外国人留学生在留資格に関する講習会」が開かれた。講師に、法務省名古屋入国管理局留学・研修審査部門 山本和幸首席審査官を迎え、石川県、富山県、福井県等の高等教育機関、専門学校や日本語学校計27機関から68名が出席した。この講習会は、在留資格「留学」及び「就学」に係る審査の厳格化を受けて開催されたもので、留学生・就学生をめぐる諸問題と出入国管理行政の対応、在留資格「留学」及び「就学」に係る審査方針について説明があった。



説明する山本和幸首席審査官=事務局大会議室

大学院特別コース及び留学生施策等の説明会



説明する長川研究留学生係長=事務局大会議室

1月21日、大学院特別コース及び留学生施策等の説明会が、文部科学省高等教育局留学生課 長川英樹研究留学生係長を講師に開かれ、本学をはじめ、新潟大学、長岡技術科学大学、富山大学、福井大学等10大学から53名の教職員が出席した。

説明会では、特別コースの優れたモデルや、各機関で実施されている優れた事例紹介のほか、留学生施策等の詳細な説明があり、出席者は、特別コースのみならず最近の留学生施策の動向についてよりいっそう理解を深めた。

ちょっと昔の雪遊び 竹スキー —角間の里山自然学校—

1月24日、竹スキーづくりをした。昨年も好評だったこの企画に、今年は15名の子供たちとお父さん、お母さんが参加した。若松町在住の松尾さん（里山メイト）の指導のもと、里山から切り出したばかりの竹を割り、ナタで削り、火であぶって曲げ、なんとか完成。初めはおっかなびつくり竹スキーに乗っていた子供たちも、慣れてくるとどんどん急な斜面にチャレンジ。「昔はスキーが高かったから、みんなで作って遊んだ」と参加したお父さん。角間の里山に雪があるうちにもう一度やりたい企画だ。



事務職員の海外研修

○文部科学省国際研究交流担当職員短期海外研修プログラム
総務部企画広報室企画係 中嶋敦子係員
平成16年1月10日～2月27日（49日）
グリフィス大学、オーストラリア国立大学及び南オーストラリア大学（オーストラリア）
語学研修及び研究マネジメント調査



グリフィス大学附属語学学校で研修する中嶋係員（正面）

大島事務局長が退任

2月1日付で異動した大島有史前事務局長は、1月29日、林学長、事務局職員に見送られて本学を後にした。

見送りを受ける大島前局長（左）＝事務局玄関



編 集 後 記



2月5日、雪景色の角間キャンパス

立春も過ぎたというのに、北陸は大雪に見舞われ、もう雪の相手はご勘弁願いたいと思っているのは私だけではないでしょう。（写真のような景色を見ると、「雪もいいなあ」なんて思ってしまうのですが・・・）

さらに、寒さと除雪疲れからか風邪をひいてしまい、早く暖かくなってほしいと願う毎日です。

次号では、何か春を知らせるような話題をお伝えできればいいですね。

さあ、春までもうひと頑張りです。何かと忙しい年度末ですが、身体に気を付けて頑張りましょう。（Y）

平成16年2月20日発行
（原則として毎月1回第3週に発行）

〒920-1192 金沢市角間町
編集 金沢大学総務部企画広報室

TEL 076-264-5024
FAX 076-234-4015

◆本紙の内容、その他の本学に関する諸情報については、「金沢大学ホームページ」〈愛称“KUPIS”（キューピーズ）〉
（アドレス＝<http://www.kanazawa-u.ac.jp>）でもご覧いただけます。
◆本紙に関する御意見・御要望などは、電子メール（E-mail）＝general1@kenroku.kanazawa-u.ac.jp でも受け付けています。